

町の将来を考える

第3回 町議会オープン・ミーティング



家庭ごみの減量化について意見交換した第1分科会

【家庭ごみ処理】

オープン・ミーティングで 出された課題

家庭のごみ処理

- ①ごみ収集の有料化を考える時期に来ている。
- ②一日一人300グラムの目標達成は難しい。
- ③生ごみをいかに減らすかがごみ減量のポイント。
- ④ごみ減量推進協議会が2年近く開かれていない。
- ⑤紙おむつ、介護パンツのごみが増加傾向。濡れていて燃えにくい。

森林伐採とソーラー施設

- ①森林伐採を見るとソーラー施設ができるのかと心配になる。
- ②ソーラー施設を造る場所を規制すべきだ。
- ③地主が高齢化し、土地を管理できなくなっているのでは。
- ④材木を売ってほしいと業者に言われ、森林を伐採した。
- ⑤土地利用を考える協議会を、地域と行政で設置しては。

再生可能エネルギー

- ①メガソーラーは景観を守ることをまず考える必要がある。
- ②メガソーラーの調整池造成で地域を災害から守る効果もある。
- ③入笠山から眺めた風景は、ソーラーパネルばかり目立つことのないように。
- ④薪ステーションを積極的に進めては。
- ⑤エネルギーの自立できる町づくりを目指して。

街角に生ごみ処理機を設置しては

第1分科会は、「家庭のごみ処理」をサブテーマに行い、ごみ減量推進協議会、クリーンアップふじみ、消費者の会、衛生自治会など関係団体の役員、会員と一般住民ら12人が参加しました。

「生ごみ処置」に関しては、桜ヶ丘区で収集して町内業者が堆肥化する実験を行ったが、町から「焼却した方が安上がり」との回答があり、審議は2年間ストップしているとの

報告がありました。そのほか、「町の中心部は生ごみを自家処理する場所の確保が難しく、コンポストは不便さを感じる。普及が進まない」として、「ごみ収集の有料化が必要では」との提案もありました。

消費者の会役員は「生ごみを袋に入れて捨てるなんて考えられない」と自家処理を推奨。東京から移住してきた女性も「畑に穴を掘って捨てている」と語りました。

女団連の会員からは「伊那や駒ヶ根では街角に生ごみ処理機が置いてある。富士見町もごみステーションの横に生ごみ処理機を設置してほしい」と提案。紙おむつ、介護パンツのごみ増加も問題だという指摘もありました。

クリーンアップふじみの役員は「マイバッグの推進活動は住民に定着してきた。現在は不要食器のリサイクル活動が中心となっている」と活動の成果を報告しました。

このほか、ごみ減量化に関して参加者から、「分別収集にインセンティブを」「生ごみ収集にポイント制を導入しては」などの提案がありました。

富士見町議会は、「第3回町議会オープン・ミーティング」をコミュニティ・プラザで開きました。前回までと内容を変え、「環境と景観」をメインテーマに据えました。町民の皆さんから、環境と景観に関する問題点や課題を出していただき、情報を共有しながら、意見交換をしました。会議は分科会形式で行い、それぞれ「家庭ごみ処理」「景観保全（境小学校前の森林伐採について）」「再生可能エネルギー」の三つのサブテーマを設定しました。前回は上回る39人の方が参加されました。

オープン・ミーティングとは

議員はテーマを提起するが、聞き手役に徹すること、発言者はお互いの意見を否定せずに自分の考えを述べ、建設的な意見を出し合う—という基本ルールを設定しました。町民の皆さんから出された質問に、議員が回答するための会議ではありません。約90分間の限られた時間の中で、ルールに沿って行いました。発言された皆さんからの声は、今後の議会活動に活かしていきます。

ソーラー設置の場所を議論すべきだ

第2分科会は、景観保全として特に「境小学校前の森林伐採」を取り上げ、近隣の人たちを含む17人が参加しました。2年前に富士見へ移住してきたという参加者は「境小前の伐採には驚いた。ソーラー計画は絶対に反対。町は、未来に何を残すのかを考えることが大事だ」と指摘。別の人は「森林伐採をみると、ソーラー発電施設ができるのか心配になる」と不安を訴えました。

移住して13年という参加者は「ソーラー発電は大事なエネルギーだが、造る場所を考えるべきだ。厳しく規制すべきです」としながら、「地主が高齢者になり、土地を管理できなくなっているのではなか」と高齢化問題との関連性を指摘。「行政や地域の地主を交えた協議会を作ったらどうか」と土地利用を提案しまし

た。

一方で、境小前の森林を伐採した「地主の一人です」という男性は、「材木を売ってほしいと業者に言われた。周りに既に伐採されていた。自分の土地だけ切つてないことに、逆に不安を感じた。道路脇の伐採を昔、町にお願いしたがやってくれなかったので許可してしまった。今となつては、どうしたらいいのか分からない」と複雑な気持ちをあらわにしました。

これに対し、「高齢で森林を管理できない地主は、土地の売却も考えるだろう。生活していく上で仕方ないが、ソーラーを設置する場所は考慮すべきだ」と規制強化を訴えました。

【景観保全】



境小学校前の森林伐採について意見交換した第2分科会

第3分科会は、メガソーラーを中心に、再生可能エネルギー全般をサブテーマに意見交換し、13人が参加しました。メガソーラーの建設計画では、南原山の住民が「諏訪南インター近くは富士見町の玄関口であり、景観を守る面からも疑問だ」と指摘。御射山神戸の山林への計画については「マウンテンバイクのトレッキングコースが近くにある」として、景観上からマウンテンバイク利用者への影響

メガソーラーで景観が損なわれるのでは

を懸念する意見がありました。広原の牧草地「中学校（なかがくりん）」へのメガソーラー建設計画は、推進する立場の参加者が「調整池を造成することにより、地域の災害を抑制する意味もある」と二次的な効果について理解を求めました。

町が策定したガイドラインに対しては「それなりにしっかりしているが、まだ活用が不十分なのは」と運用方法に注文。町内のメガソーラー建設全般に対しては、「入笠山から下界を眺めたとき、ソーラーパネルばかりが目立つことがないように」と景観が損なわれることを心配する意見がありました。

そのほかの再生可能エネルギーでは、「小水力発電は、用水路の水量が安定しないため、農業が優先の富士見町には向かない」「薪ステーションを積極的に進めては」「50年後、エネルギー消費の自立ができる町づくりを目指しては」などの提案や意見がありました。

【再生可能エネルギー】



太陽光発電と景観、環境保全について意見交換した第3分科会